

令和2年度 スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト  
(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)」  
(スポーツに精通した手話通訳者の育成)

成果報告書

令和3年4月  
一般財団法人 全日本ろうあ連盟

令和2年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト  
(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)」  
(スポーツに精通した手話通訳者の育成)  
成果報告書

令和3年4月  
一般財団法人全日本ろうあ連盟

本報告書は、スポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、一般財団法人全日本ろうあ連盟が実施した令和2年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）」（スポーツに精通した手話通訳者の育成）の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

## 【調査概要と目的】

現在デフアスリートへのスポーツ指導は、多くがきこえるスポーツ団体（NF）の協力を得て指導者を派遣する（または競技団体自身で確保している）、またNFが構成するチームや実業団などの練習に参加している等で行なわれることが多く、デフアスリートに対する工夫をしていただいているところではあるが、きこえる選手と同等の情報を得ている現場は少ないのが現状である。

デフスポーツは他のパラスポーツと違い、きこえるスポーツと身体的な差は大きく無いものの、使用する言語（音声言語と手話言語）が大きく異なり、またスポーツ指導の現場で技能を伝達する手段が音声であることが多いため、共に練習をすることはできたとしても、デフアスリートにとって適切な指導を受けることが難しいことが多い。

デフスポーツ競技団体は運営基盤が脆弱なところが多く、スタッフの多くがボランティアで運営しているのが実状であり、財政的にも厳しく、デフスポーツに理解のある指導者やスタッフの確保に苦労している。また、デフアスリート当事者の立場から見ても、自身のどこを改善すれば技能が向上するのかといった専門的な指導を受ける環境を得ることが難しい。

そのような状況を改善する方法の一つとして、指導者やトレーナー等専門スタッフとデフアスリートとの意思疎通を支援する手話言語通訳者を確保する必要がある。しかし、現状スポーツに精通した手話言語通訳者が十分確保されている訳ではなく、手話言語通訳者が現場にいたとしても、デフスポーツに関する知識が十分でないこともあり、結果として指導者・スタッフと選手との意思疎通が十分に図れていないケースも見られる。

指導現場における手話言語通訳者に求められる役割・知識としては、聴覚障害者に関する理解はもちろんのこと、スポーツへの理解、身体の基本構造やメディカル（フィジカル面・メンタル面）・アンチドーピングを含むハイレベルスポーツに共通する知識のほか、スポーツならではの特性として競技毎にルールや必要とされる技術、使用用具など競技毎に大きく異なり、手話言語通訳としては非常に専門性の高いものとなる。

今回の事業では、その基礎として上記現状を改善するため、スポーツに精通した手話言語通訳者の育成等に関する有識者による検討委員会を開催し協議を重ね、まずはデフスポーツ・デフアスリートをささえるという立場から、デフアスリートの置かれている状況を手話言語通訳者（手話通訳士・手話通訳者）に理解していただくということを主眼に置き、ガイドブック及び動画等の成果物を作成した。

また、独自提案として、スポーツ大会に係る式典における国歌斉唱時で使用する国歌「君が代」について、現状統一された手話言語版が作成されていないため、本事業で「式典における国歌手話言語試行版」を作成し、テキスト及び動画を作成し、今後のスポーツイベント等で使えるものを提示した。現段階では「試行版」であるため、今後デフアスリートや手話言語通訳者の意見を踏まえながら、正式版の制定に向けて引き続き精査を進めたい。

### （1）有識者による検討委員会の開催

「デフスポーツにおける手話言語通訳者の育成等に係る検討委員会」（以下、検討委員会）を設置し、年度内に3回（2020年12月、2021年1月、同年2月）会議を実施した。開催方法としては、コロナ禍が続いたため、オンラインを有効に活用し、その中に手話言語通訳者を設置し、議論が円滑に進むよう取り組んだ。また、委員会時のみではなく、メーリングリストを作成し、委員を登録、積極的に意見交換を実施した。

## (2) 試行実施又は検証（2件以上）

成果物として、ガイドブック（マニュアル）を作成した。その方向性として、対象は「手話通訳士」「手話通訳者」（全国約1万人）としたが、ろう当事者・一般の方が見ても参考になるよう、内容には十分配慮した。

ガイドブック名：「デフアスリートをささえる vol. 1」（デフスポーツ共通）

（競技編）「デフアスリートをささえる競技別手話言語通訳ガイドブック 自転車編」

「デフアスリートをささえる競技別手話言語通訳ガイドブック サッカー編」

競技編で、今回この2競技を選択した理由は下記の通りである。

自転車：個人競技であることと競技の知名度が比較的低い

サッカー：団体競技であることと競技の知名度が比較的高い

## (3) 結果の分析及び提案

デフリンピックに出場し、メダルを獲得した経験のあるデフアスリートの座談会を2021年3月にオンラインで開催した。当日はメイン会場に手話言語通訳・要約筆記者を情報保障として配置し、アスリート本人ができるだけリラックスした雰囲気の中で本音を話せるよう工夫を行った。

（テーマ概要）

- ・きこえる世界でたまたまかかってきた中で困った点等
- ・学校（部活）⇒競技大会⇒世界大会（デフリンピック）
- ・デフアスリートならではの特徴（出身による違い）

この座談会の動画を収録し、「デフアスリートをささえる vol. 1」ガイドブックへのリンクや当連盟Webサイトに掲載する等、広く啓発していく。

## (4) 「式典における国歌手話言語試行版」の協議及び簡易テキスト（試行版）の作成

多くのスポーツ大会の開閉会式、表彰式等で実施される国歌斉唱の手話言語表現について協議し、簡易テキストを試行的に作成した。これで確定ということではなく、まずは問題提起の意味も含めて「国歌の手話言語試行版」を策定し、今後普及をし、「国歌の手話言語版（正式版）」の制定に繋げていく。

※現状、統一された手話言語版が策定されていないため、地域で独自に決めた手話単語や歌詞の五十音にあてた指文字で対応している。

### 【調査内容・詳細】

全日本ろうあ連盟は、国内デフスポーツ競技団体（23団体）と連盟内の部門であるスポーツ委員会を通して密接な関係を持っており、デフスポーツの現状や課題を把握している。また、スポーツ委員会内にメディカルの専門委員会である「医科学委員会」を設置しており、医学的な観点からもアプローチをすることができる。下記の団体とも日常的に協力・連携して活動しており、これらの団体、または関係団体の協力を得ながら今回の調査研究事業を行った。

- ・社会福祉法人全国手話研修センター

厚生労働省の委託を受けて標準手話の確定と普及に取り組んでいる日本手話研究所が設置されている。また、都道府県が認定する「手話通訳者」の資格試験である「手話通訳者全国統一試験」を実施している

- ・一般社団法人全国手話通訳問題研究会

聴覚障害者福祉と手話通訳者の社会的地位の向上を目指して、手話や手話通訳、聴覚障害者問題についての研究・運動を行う組織

- ・一般社団法人日本手話通訳士協会

厚生労働省認定資格である「手話通訳士」の資質および専門的技術の向上と、手話通訳制度に寄与する手話通訳士による組織

- ・国立大学法人筑波技術大学

日本で唯一の聴覚障害者のための高等教育機関。全国から聴覚障害学生が集まり、スポーツに打ち込む学生も多い

## (1) 有識者による検討委員会の開催

### 1. 「デフスポーツにおける手話言語通訳者の育成等に係る検討委員会」 (以下、検討委員会) 委員の選定

全日本ろうあ連盟及び上記に挙げた関係団体の他、デフスポーツ競技団体、手話言語通訳者派遣機関、現場の手話言語通訳者等から適任者を選定し、委員を委嘱した。

<検討委員会委員> 10名

社会福祉法人全国手話研修センター	小出 新一
一般社団法人全国手話通訳問題研究会	桐原 サキ
一般社団法人日本手話通訳士協会	草野 真範
国立大学法人筑波技術大学	大杉 豊
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 医科学委員	中島 幸則
一般社団法人日本ろうあ者卓球協会	井出 敬子
一般社団法人日本ろうあ自転車競技協会	高島 良宏
東京手話通訳等派遣センター	江原 こう平
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 委員長	小椋 武夫
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 事務局長	嶋本 恭規

#### <任務内容>

- ・委員会会議出席 (期間内3回を予定、オンライン参加対応可)
- ・メーリングリスト等を活用した意見交換
- ・ガイドブック作成への意見提案・骨子案作成
- ・(必要に応じて) 現場で使われる手話言語確定に向けての意見提案
- ・事業の結果・分析、提言作成

### 2. 「検討委員会」会議の開催

## 第1回（国歌部会同時開催）

開催日時：2020年12月24日（木）9時30分～12時30分

方法：対面（測量年金会館）及びオンライン（ZOOM ミーティング）

出席者：検討委員9名（1名代理、1名委任）、国歌部会部員6名（1名委任）

- 議題：1. 事業概要・主旨・方向性の確認  
2. マニュアルの構成（冊子・動画）の構成及び内容  
3. 国歌の手話言語試行版意見交換

議論概要：手話言語通訳者はスポーツの現場に立つ機会が少ない。手話通訳士・者に対し、デフスポーツ、デフアスリートのことを知ってもらうテキストにする。デフアスリートと言っても生い立ち等が異なるので、特性に合わせた手話言語通訳が必要。指導者の意図や選手の希望などをくみ取ったコミュニケーション支援が必要だが、今年度は基礎知識・競技のルール等最低限の知識を載せる方向で進める。



オンラインと対面型のハイブリッドで実施

会場には大きなスクリーンで、手話言語が見えやすいよう、工夫をしている

## 第2回

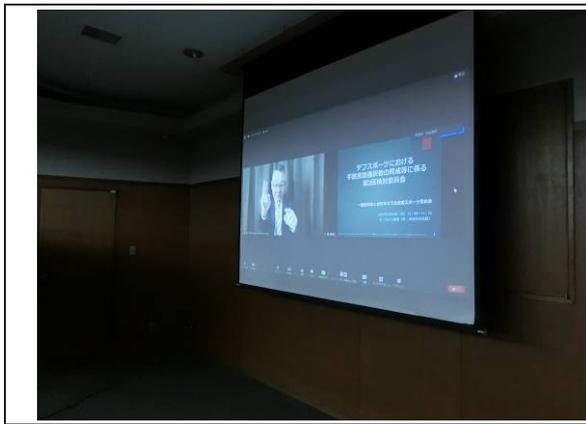
開催日時：2021年1月25日（月）13時～16時

方法：対面（測量年金会館）及びオンライン（ZOOM ミーティング）

出席者：検討委員9名（1名委任）

- 議題：1. 共通マニュアルの構成・内容について（競技別含む）  
2. 情報共有・意見交換  
3. 講習会に向けた準備・周知

議論概要：マニュアル（共通・競技別）の構成案について、手話言語通訳者が最低限知っておいてほしいもの、デフスポーツとは何か、スポーツ手話言語通訳とはその心構え、デフアスリートが視覚的に情報を得るための機器、デフスポーツ団体の紹介、デフリンピックについて掲載したい。デフスポーツの現場はレクリエーション、教育、日本代表レベルなど様々なので焦点を絞った方が良い。構成案から具体的な章立てとし、執筆者を決定する。講習会は開催が厳しいが、可能であればオンラインで参加者を募って開催をする。



話者を拡大して表示



感染対策にも留意しての会議

### 第3回

開催日時：2021年2月19日（月）13:00～16:00

方法：対面（測量年金会館）及びオンライン（ZOOM ミーティング）

出席者：検討委員10名

議題：マニュアルの方向性の共通認識について

議論概要：方向性の確認と意見交換。福祉の現場とスポーツの現場での手話言語通訳のあり方の違いも認識する必要。今年度で終わりではなく、次年度以降は深掘りしたものにできるよう繋げられるものとする、まず聞こえない人（ろう学校、地域の学校出身等）がスポーツをするという立場で、どんな困りごとがあるか整理し、デフリンピックを目指してメダルを取るまでのストーリーで考えてみる。講習会の代わりにアスリートの本音を引き出す座談会を開催し、それを成果物として盛り込む。



ガイドブックの方向性を最終確認

### 3. 全体の方向性

(1) 共通ガイドブックできこえない人のスポーツ分野におけるニーズ

（不便さ、問題点、要望）を整理。

(2) 競技別マニュアルはサッカーと自転車を取り上げ、各競技通訳にあたって必要とされる知識（入れる部分、時間の流れ、ルールなど）をまとめる。

⇒今回の事業は期間も短く、十分討議できない部分もあったが、デフスポーツに精通した手話言語通訳者の育成が必要であることは再認識された。今回を足がかりに次年度以降、デフスポーツ競技団体や関係団体などの協力をいただきながら、デフスポーツにおける手話言語通訳者の必要性を周知、養成を行なっていきたい。

(2) 試行実施又は検証 (2件以上)

1. 共通ガイドブック「デフアスリートをささえる」

<構成> A5 全16ページ (フルカラー)

「スポーツ分野で通訳するための準備」、「学校でのスポーツ活動」

「レクリエーション」(地域スポーツ)、「一般の競技大会に参加する」

「デフスポーツに参加する」、「デフスポーツの活動状況の紹介」

印刷部数：200部

配布対象：連盟加盟団体(47都道府県)、競技団体(約20)、関係団体(行政含む約100ヶ所)  
その他、PDF版を連盟Webサイトで公開して、一般の方を含め多くの方に見ていた  
だけのようにした。

2. 競技別手話言語通訳者ガイドブック「自転車」「サッカー」について

○「デフアスリートをささえる競技別手話言語通訳ガイドブック 自転車編」

<構成> A5 全16ページ (フルカラー)

「スポーツ分野で通訳するための準備」(共通編と同様)

「ろう者と自転車」、「自転車の種類と楽しみ方」

「自転車の仕組み(ロードバイクとマウンテンバイク)」

「自転車競技と情報保障」

「自転車競技での通訳ポイント(ロードバイクとマウンテンバイク)」

「通訳のズレの例」、「自転車用語」

編集協力…一般社団法人日本ろう自転車競技協会

○「デフアスリートをささえる競技別手話言語通訳ガイドブック サッカー編」

<構成> A5 全16ページ (フルカラー)

「スポーツ分野で通訳するための準備」(共通編と同様)

「サッカーの基礎知識」、「ろう者とサッカー」

「デフサッカーの主な大会」、「サッカーの基本的なルール」

「サッカーにおける手話言語通訳のポイント」

「オフサイドについて」、「サッカー用語」

編集協力…一般社団法人日本ろう者サッカー協会

印刷部数：各200部

配布対象：連盟加盟団体(47都道府県)、競技団体(約20)、関係団体(行政含む約100ヶ所)  
その他、PDF版を連盟Webサイトで公開して、一般の方を含め多くの方に見ていた  
だけのようにした。

なお、それぞれのガイドブックは当成果報告書の後半に掲載をしているので、ご参照いただき  
たい。

### 3. コロナ禍の影響

当初、競技団体の協力をいただき、競技専門の講師を招へいして競技別の研修会の開催、また、合宿等での実技試行（実地研修）を予定していた。しかし、全国的なコロナ禍や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の延期の影響もあり、研修会を開催することはできなかった。

代わりに、デフリンピックに出場経験のあるデフアスリートを呼んで、「スポーツに精通した手話言語通訳者の育成共通マニュアル作成のための座談会（ヒアリング）を実施し、動画を収録した。（詳細は（3）結果の分析及び提案を参照）

#### (3) 結果の分析及び提案

##### 1. デフアスリートへの座談会の開催

開催日時：2021年3月10日（水）19時～21時

方法：対面（ビジョンセンター永田町）及びオンライン（ZOOM ウェビナー）

スムーズな配信・収録を行うため映像業者に協力を依頼。

出席者：デフアスリート4名（デフ水泳男子2名、デフバレーボール女子2名）

茨 隆太郎 選手（一般社団法人日本ろう者水泳協会）

金持 義和 選手（一般社団法人日本ろう者水泳協会）

安積 梨絵 選手（サムスンデフリンピック女子バレーボール日本代表）

平岡 早百合 選手（一般社団法人日本デフバレーボール協会）

検討委員3名（コーディネーター：大杉、聞き手：高島、嶋本）

概要：検討委員からデフアスリートに対して様々な場面での聞き取り。

- ・きこえる世界でたたかっていた中で困った点等をヒアリング
- ・学校（部活）⇒競技大会⇒世界大会（デフリンピック）
- ・デフアスリートならではの特徴（出身による違い）

聞き取り内容：

##### (1) 学校（高等部まで）でのスポーツ活動について

- ①ろう学校の体育授業で困ったことはありますか。逆に楽しかった思い出は？
- ②地域の学校の体育授業で困ったことはありますか。逆に楽しかった思い出は？
- ③ろう学校の部活で困ったことはありますか。
- ④地域の学校の部活で困ったことはありますか。
- ⑤学校レベルの交流試合や競技大会に出て困ったことはありますか。
- ⑥学校の時から「デフリンピック」のことを知っていましたか。
- ⑦学校の時からきこえない人の競技大会における差別のことを知っていましたか。

##### (2) 一般の競技大会（国体・障害者国体を含む）への参加について

- ①記録会や大会の競技面で困ったことはありますか。
- ②記録会や大会の開会式や練習など運営面で困ったことはありますか。
- ③体づくりやアンチドーピングに関する講習で困ったことはありますか。
- ④緊急時（怪我をしたとか）で困ったことはありますか。

##### (3) デフスポーツの競技大会への参加について

- ①「全国ろうあ者大会」に参加して困ったことはありますか。
- ②「デフリンピック」に参加して困ったことはありますか。
- ③国際交流で困ったことはありますか。

- ④強化合宿に参加して困ったことはありますか。
- ⑤監督・コーチなどとのコミュニケーションで困ったことはありますか。
- ⑥ドーピング検査や検査対象者登録などで困ったことはありますか。
- ⑦点滅でスタート合図を知らせる装置で困ったことはありますか。
- ⑧デフスポーツに参加して困ったことや違和感はありましたか。
- ⑨金メダルを取って表彰式で国歌が流れる時困ったことはありますか。
- ⑩記者会見、表敬訪問などで困ったことはありますか。

収録した動画（手話言語通訳・読み取り音声付き）は編集を行い、連盟 Web サイト、パンフレットにQRコードにてリンクを作成する等、手話言語通訳だけでなく、多くの方に視聴できる環境を整えた。

（要約筆記については、あくまで当日の情報保障であることから収録はしていないが、当日は手話言語のできないデフアスリートも参加していたため、要約筆記も付与して実施した）

 <p>スポーツに精通した手話通訳者の育成 共通マニュアル作成のための座談会（ヒアリング）</p> <p>2022年5月12日（水）15時～21時 ※ビデオ通訳サービス（オフライン通訳） 2022.5.12.15:00～21:00</p>	 <p>⑤: 学校レベルの交流試合 競技大会に出て困ったこと</p> <p>【デフアスリート】 女子バレーボール 安積 梨絵 選手 (社会バレーボール協会) 女子バレーボール日本代表</p>
<p>オンライン座談会の様子</p>	<p>女子バレーボール 安積選手</p>
 <p>⑥: 学生時代「デフリンピック」を知っていたか</p> <p>【デフアスリート】 水泳男子 金持 義和 選手 (一般社団法人 日本ろうき水泳協会)</p>	 <p>【聞き手】 高島 良宏 一般社団法人 日本ろうき水泳協会 代表理事 デフリンピック委員 デフリンピック推進委員会 会長</p>
<p>男子水泳 金持選手</p>	<p>聞き手 高島委員</p>
 <p>【デフアスリート】 女子バレーボール 平岡 早百合 選手 (一般社団法人 日本デフバレーボール協会)</p>	 <p>⑧: 体づくりやアンチドーピングに関する講習等で困ったこと</p> <p>【デフアスリート】 水泳男子 茨 隆太郎 選手 (一般社団法人 日本ろうき水泳協会)</p>
<p>女子バレーボール 平岡選手</p>	<p>男子水泳 金持選手</p>



怪我の経験について



デフリンピックに参加した経験から



平岡選手は安積選手に支えられたとのこと



きこえる人の中でのコミュニケーションの苦労



表彰式での国歌斉唱について



約2時間のヒアリングでした



円滑に配信・収録を行うため、映像業者も導入。手話言語通訳・要約筆記も配置

## <座談会収録動画>

スポーツに精通した手話通訳者の育成共通マニュアル作成のための座談会（オンラインヒアリング）

<https://youtu.be/PBvezrrD2MM>（約1時間55分）

## 2. 今年度の成果と次年度に向けて

成果物（ガイドブック3種類、座談会動画含む）は全日本ろうあ連盟のWebサイトに掲載、印刷物は競技団体・手話言語関係団体等に配布する。また、次年度以降必要に応じて更新を行う。

### <今後の課題>

- ・デフスポーツに精通した手話言語通訳者は不足している状況。
- ・手話言語通訳者に知ってもらいたいスポーツの知識の整理。
- ・次年度以降、共通ガイドブックをブラッシュアップする、競技を増やす等事業を拡大し、デフスポーツにおける情報格差、またデフアスリートが情報不足で困ることのないよう情報保障環境を整えることも必要。そのために「スポーツに精通した手話通訳者の育成」は重要である。
- ・手話通訳士・者に対してガイドブックを使用した講習会（共通・競技別）を行う。

### 【今後のガイドブック作成（更新）にあたっての検討ポイント】

- (1) 「デフスポーツ」がどういったものなのかについて定義できないか。
  - (2) スポーツを「する」「観る」「支える」で捉えると、今回のパンフレットはスポーツを「する」きこえない人をめぐる手話言語通訳の必要性に絞ったものであることを明確にできないか。（「観る」「支える」の分野については今後の事業で実施）
  - (3) 「する」をさらに「学校教育」「レクリエーション」「競技」に分けて、作成するガイドブックがどの分野を扱うのかを明確にできないか。
  - (4) 別の見方で、「する」をきこえない人だけの教育・行事、一般市民・選手の参加する教育・行事、どちらを中心に取り上げるのか明確にできないか。
  - (5) デフリンピックをどの位置づけで紹介するのか明確にできないか。（手話言語通訳育成の観点で、知識として紹介するのか、デフリンピックの現場で必要な通訳のイメージを、国際手話通訳もあわせて紹介するのか。）
- (4) 「式典における国歌手話言語試行版」の協議及び簡易テキスト（試行版）の作成

#### 1. 前提

現在、わが国の国歌は手話言語版が定められていない。そのため、毎年開催される国民体育大会・全国障害者スポーツ大会等、またデフアスリートがメダルを獲得した際の表彰式で国歌を斉唱する際に、歌詞に五十音をあてて表現をする、大会や手話言語通訳者ごとに異なった表現を使用するなど、混乱や戸惑いを生んでいる状況である。

そのため、多くのスポーツ大会の開閉会式、表彰式等で実施される国歌斉唱の手話言語表現について協議し、簡易テキストを試行的に作成した。

これで確定ということではなく、まずは問題提起の意味も含めて「国歌の手話言語試行版」の策定を行った。

## 2. 日本手話研究所へ素案作成依頼

厚生労働省の委託を受け、標準手話研究に50年の実績のある「社会福祉法人全国手話研修センター日本手話研究所」に素案の作成を依頼した。日本手話研究所で本委員会を開催し、素案（動画）を提出していただいた。

### <素案のポイント>

1. 国歌についての法律に則っていること。
2. 歌のテンポにあっていること。
3. 歌詞は標準手話を使うこと。
4. 意識しすぎないこと。
5. 国民になじみやすく覚えやすい表現。

⇒この素案（動画）を元に、「式典における国歌手話言語試行版 検討部会」で手話言語の表現を検討することとした。

## 3. 「式典における国歌手話言語試行版 検討部会」（国歌部会）の開催

### <委員選定>

日本文学の専門家である同志社女子大学教授をはじめ、手話言語研究の専門家、厚生労働省委託「手話研究・普及等事業」を行っている社会福祉法人全国手話研修センター日本手話研究所の研究者から選定を行った。また、教育・文化的な分野も関わる件であるため、全日本ろうあ連盟の教育・文化委員会より部員を2名選出した。

### <国歌部会委員> 7名

同志社女子大学表象文化学部日本語日文学科 教授	吉海 直人
国立大学法人筑波技術大学	大杉 豊
社会福祉法人全国手話研修センター日本手話研究所	高塚 稔
全日本ろうあ連盟教育・文化委員会 委員長	山根 昭治
全日本ろうあ連盟教育・文化委員会 委員	廣川 麻子
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 委員長	小椋 武夫
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 事務局長	嶋本 恭規

### <任務内容>

- ・部会会議出席
- ・メーリングリスト等を活用した意見交換
- ・「式典における国歌手話言語試行版」簡易テキストへの意見提案・骨子案作成

### 第1回（第1回検討委員会に併催）

開催日時：2020年12月24日（木）9時30分～12時30分

方法：対面（測量年金会館）及びオンライン（ZOOM ミーティング）

出席者：検討委員9名（1名代理、1名委任）、国歌部会部員6名（1名委任）

議題：「国歌の手話言語試行版」素案について意見交換

議論概要：素案を提出。①国歌についての法律に則っていること。②歌のテンポにあっていること。③歌詞は標準手話を使うこと。④意識しすぎないこと。⑤国民になじみやすく覚えやすい表現として考えた。特に気を付けたのは、子どもも手話を知ら

ない人でも表現しやすくわかりやすい表現にすること。これまでデリケートな問題で手話言語化ができていなかったが、試行版とはいえ良い物を作成するために議論したい。

	
<p>第1回は検討委員会と併催</p>	<p>日本手話研究所の素案の他、いくつかの事例を紹介</p>

### 第2回

開催日時：2021年2月2日（火）14時半～16時

方法：オンライン（ZOOM ミーティング）

出席者：国歌部会部員7名

議題：1. 冊子の構成・内容・歌詞の表現について

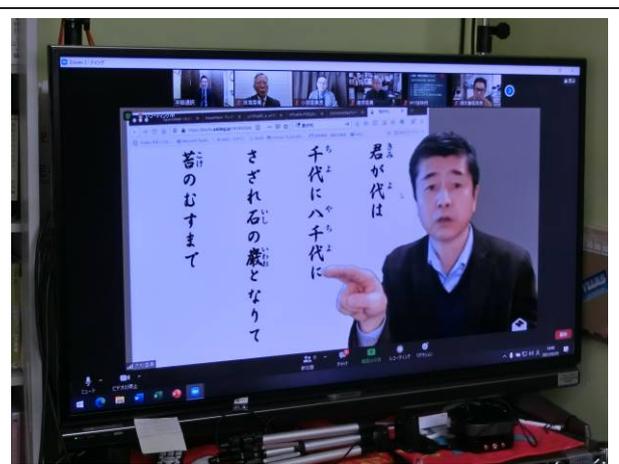
2. 「国歌の手話言語試行版」意見聴取について

### 3. 情報共有・意見交換

議論概要：（特に）「君」の表現については、様々な意見があったが、独自に解釈することなく、基本に忠実に表現をすることとした。「君が代」のテンポやイメージに合った表現になっているので、素案から変更することは不要。シンプルで表現しやすい。斉唱後にろう者の拍手に繋がられるようなものにもなっている。今回の事業についてはスポーツの式典の範囲で試行的に使ってみて社会の反応を受けて、来年度につなげていくことになる。試行版とはいえ表に出れば賛否両論の意見が出ることになるだろう。それを受けて随時修正しつつ正式版に向けて啓発を行っていく。



素案の再確認



君が代の歌詞について

#### 4. 成果物 手話言語動画の撮影・簡易テキスト作成

議論が一定まとまり、今回の事業の成果物として「国歌手話言語試行版テキスト」を作成。また、手話言語動画のモデルとして、全日本ろうあ連盟青年部及び公益社団法人札幌聴覚障害者協会の協力を得て、手話言語動画を収録した。

<策定にあたっての5つの基本方針>

- ・「国旗及び国歌に関する法律」に則っていること
- ・国歌の拍子に合わせること
- ・歌詞は標準手話を使うこと
- ・意識に偏りが出ないこと
- ・国民がなじみやすい表現であること

きこえないスポーツ選手がメダルを獲得した際に堂々と手話言語で国歌を斉唱できるよう、子どもや手話言語を知らない人でもわかりやすい表現になるよう工夫した。国歌「君が代」の厳かさをその通りに手話言語で忠実に表現しています。

印刷物については連盟加盟団体、国及び行政、競技団体（約20ヶ所）等、関係団体に配布したほか、連盟Webサイト等にPDFで公開を行い、周知を行っている。

「試行版」に対して、今後意見聴取を行う機会も設けたい。

<動画>

「国歌『君が代』手話言語試行版」 <https://youtu.be/gaA-zti-IyA>

なお、「国歌手話言語試行版テキスト」は当成果報告書の後半に掲載をしているので、ご参照いただきたい。

#### 【まとめ】

委託期間が短かったことと、新型コロナウイルス感染の拡大が収まらない状況のなかで事業を進めたこともあり、今年度の事業は試行的に行うものが多かった。しかし、短い期間ながらも、各委員会委員や競技団体の協力をいただき、「スポーツに精通した手話通訳者の育成」の足がかりとなる成果物は作成できた。

今回の事業を進める中で「スポーツ」に特化した手話言語通訳者の必要性が再認識でき、また一人でも多くのデフスポーツの現場にも対応できる手話言語通訳者を継続して育成することでデフアスリート・デフスポーツ競技団体からの情報保障のニーズに応えられるよう、事業を継続して行っていきたい。